

## 実践報告

## 札幌市立福井野小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究」

- 「道徳」の充実から人権教育に視点を広げ、人権意識を教育活動全般に波及させていくことを目指す。

### (2) 実践の内容

【実践①】札幌法務局 出前講座を活用した身近な「人権」  
～レバンガ北海道の選手とともに学ぶ～ について

#### ○ ねらい

- ・ スポーツを通して、「スポーツマンシップ」や「ルール遵守の大切さ」などといった人権の基礎となる事柄を学び、意識を高める。
- ・ 皆で協力することの大切さを、試合の中から体感させる。



#### ○ 学習内容（対象：5 年 2 学級合同で実施）

- ・ プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の選手をお招きし、経験談からねらいに迫る話をしていただいたり、ミニゲームや実践練習を通してチームメイトとの協働意識を体感させたりしながら、「仲間」の結び付きを露わにした。
- ・ その上で、法務局のゲストティーチャーに、人権についての具体的な講話をいただき意識を高めた。

【実践②】スクールカウンセラーによる「いのちの授業」について

#### ○ ねらい

- ・ 日常生活によく起こる身近な事案を基に、「友情」、「仲間」をキーワードに据えて、人権を「守る」「尊重する」ことへ意識を高め、進学に備える。

#### ○ 学習内容（6 年 2 学級で実施）



- ・ クラスごとに学習。事前に QU-Hyper テストを実施し、スクールカウンセラーとのデータ解析を行った。その上で、友達関係の現状から学習テーマを精査して、授業内容を決定した。
- ・ 学校生活で起こりがちな、トラブルや困りごとの具体的な事例を取り上げ、カウンセラーを中心とした対話形式で授業を構成。テーマが身近に起こっている事案を含んでいたため、多くの子どもが発言するなど、核心に迫る学習になった。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ 「友情」や「助け合い」といった漠然とした思いを、「人権」というくくりで捉えていく視点を生むことができた。
- ・ 委員会活動など、授業以外の活動で「いじめ防止」や「あたたかい学校づくり」への意識が芽生え、多くの取組につながっている。  
(あたたか標語コンクール など) →写真
- ・ 道徳や、これら人権教育の取組を基盤に、カリキュラム全般の見直しを進めていくことで、教職員の意識がそろい、同じ方向性で教育活動を営んでいく風土の醸成につながっている。



#### ② 課題

- ・ 単発、または一方向の学習や取組にならないように気を配らなければならない。常に相手を意識し、双方向で認め、確認しながら進めていくようにしたい。
- ・ 短時間、短期間で育つものと、そうでないものがある。短絡的な評価や尚早なゴール設定では、当初の目的が達成されぬまま終わってしまうことになり、かえって子どもの興味や関心をそぐ結果になってしまうことがある。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 本研究の柱は、「学校づくり」にある。人権意識を子どもの実態に合わせて捉え、高めていき、そこから学校の教育活動全般に波及させていくことをねらっている。
- ・ 子どもへの教示だけではなく、われわれ教職員の人権意識の高まりを同時に実感できる。特に、外部講師を招いての学習から得るものは多い。
- ・ これらの要素を上手くかみ合わせ、教育活動を進めることで、「いじめ」や「いのち」といった最も重く重要なテーマについて、子どもの本音が吐露され、学校の活性化が期待できる。ひいては、保護者や地域から愛され期待される学校づくりができると考え、今後も強く推進していきたい。